

クリエイティブセンター
CREATE CENTER



茨木市文化振興財団第212回公演

上方落語五流派競演会 Vol.11

—— 番組 ——

解説「上方落語界の現状」 相羽秋夫

*

「湯屋番」 林家菊丸

「月に群雲」 笑福亭三喬

「お化長屋」 三遊亭円楽 (江戸落語ゲスト)

中入

「狼講釈」 露の新治

「妙齡女子の微妙なところ」 桂あやめ

「替り目」 桂塩鯛

お囃子／なにわの会

2017.6.25[日]14:00 開演 (13:30 開場) / 茨木クリエイティブセンター・センターホール

[全席指定]1階席4,000円/2階席3,500円 ◎65歳以上、障害者及びその介助者は500円引き/青少年(24歳以下)1,000円

◎茨木市観光協会、茨木市勤労者互助会、OSAKAメセナカード各会員は10%引き (この取り扱いは財団のみです) *就学前のお子様はご遠慮ください。

5月13日[土]9:00予約開始

財団の発売初日はインターネット・電話予約のみです。初日の電話予約は1回の申し込みにつき6枚まで。

■チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055 (9:00~17:00) / インターネットチケット www.ibabun.jp

予約後は1週間以内に下記のチケットカウンターでご精算ください。チケットの引取り・窓口販売(残席がある場合)は発売翌日からです。

◎クリエイティブセンター1階チケットカウンター (9:00~17:00) ◎福祉文化会館3階チケットカウンター (9:00~17:00)

*インターネット予約については、コンビニ(セブンイレブン、サークルK、サンクス)でご精算・受取いただけます。(手数料108円)

■その他プレイガイド(初日店頭販売あり 10:00~)

ローソンチケット0570-000-407 (オペレーター対応)・Lコード予約0570-084-005 (Lコード51652) *ローソン、ミニストップ各店舗で直接購入できます。

チケットぴあ0570-02-9999 (Pコード455-676) *セブンイレブン、サークルK、サンクス各店舗で直接購入できます。

■主催: 公益財団法人茨木市文化振興財団 ■制作: 三栄企画 ■構成: 相羽秋夫 ■後援: 茨木商工会議所/茨木市観光協会

文化力



「上方落語五流派競演会」と掛けて

因幡いなばの白うさぎと解く その心は尾も白いおもしろ(面白い)



相羽秋夫(演芸評論家)

この会は、昨年十回目の記念公演を盛大に開き、皆様の熱烈なご支援を受けた。今回からは初心に返り、さらに充実した内容でお楽しみいただこうと、関係者はがんばっている。

上方落語界の五つの流派から、それぞれ代表者を選んで、ここ茨木の地で話芸の粋を競う落語会で、他に例を見ない「茨木名物」である。

茨木市在住の桂塩鯛をトリに、お馴染み三遊亭円楽を東京よりゲストに招いての豪華な顔ぶれの今回。出演者と演目のご案内をしたい。

開口一番は、林家一門から林家菊丸が登場する。

菊丸は、染丸の六番目の弟子である。三重県に生まれ、大阪の大学に在学中に入門してこの道を歩み始める。

染丸という名前が活躍し、数々の賞に輝く。

それを見た染丸は、一門の名跡である菊丸の名を襲名させた。当代で三代目になる。この名は、現在古典として残る名作を多数創作して存在を示す由緒深い名だ。

端正な顔立ちには、女性ファンが多く、独演会はいつも華やいている。「湯屋番」は、主人公の若旦那と菊丸が重なる。そこで謎掛けを。

菊丸と掛けて「小さな穴」と解く。その心は「女性も掘ほ(惚)れます」。

続いては笑福亭一門の笑福亭三喬である。

三喬は兵庫県の生まれ。大卒後、若くして逝去した松喬の筆頭弟子として入門。期せずして菊丸の大学の先輩に当たる。最初笑三でデビューしたが、師匠の襲名に伴い三喬と改名。さらにこの十月、七代目松喬の襲名披露が、大阪の松竹座で持たれる予定だ。

当初からの活躍ぶり、それを認められての多くの受賞、一門の統率力など、どれをとっても師匠の名を継ぐにふさわしい存在である。披露興行が今から楽しみである。

「月に群雲」は新作で、盗賊が出てくる三喬得意の演目の一つである。三喬と掛けて「道の駅」と解く。その心は「新しい菜(名)が待っている」。

中入り休憩を挟んでは、三代目春団治一門の露の新治である。

新治は大阪市の生まれ。大卒後、まず故林家染三門下となり、しん三、さん二を経て、春団治一門の故二代目露の五郎兵衛に再入門する。そこで新次を名のり、さらに現在名になるというユニークな経歴を持つ。誠実な人柄で、たえず努力を怠らない姿勢が近年開花した。その一つが文化庁芸術祭優秀賞の受賞だ。「狼講釈」は、演じ手が少なくなった斬だが、新治の手にかかると魅力を発揮する。早くから、人権感覚の大切さを説く全国行脚を続けて注目

を集める。

新治と掛けて「忠犬ハチ公像」と解く。その心は「人犬(人権) 愛に胸を打たれます」。

次ぐ三度目のお目見得となる。

あやめは、兵庫県の生まれ。故五代目文枝に入門して花枝を貰う。その後、五代目の最初の名前である三代目あやめを襲名した。十名を超える女流落語家の中で、露の都に次いで二番目の古参となった。

女性の演者向きに出来ていない落語を、何とか女性仕様にと血のにじむような努力を続けている。

その一つが、女性を主人公にした斬の創作だ。今回の「妙齡女子の微妙なところ」も、そうした意欲の一端である。

あやめと掛けて「ベテラン刑事」と解く。その心は「搜索(創作)が巧み」。

米朝一門の桂塩鯛が、大トリをつとめる。

塩鯛は京都市の生まれ。大学在学中に、朝丸を名のつていたざこばの一番弟子として入門して都丸と命名される。ざこばが若かったため、師弟というより兄弟のような関係で修行を積んだ。

近年、四代目塩鯛を襲名した。独り立ちするや、茨木市内に居を構え、現在も当市で独演会を開くなど地元にくさんのファンを持つ。

スケールの大きな語り口で幅の広い演目をこなす。数々の受賞がそれを証明している。

「替り目」は、酒の斬だが、この分野でも塩鯛の腕が冴える。

塩鯛と掛けて「青信号」と解く。その心は「止まる(都丸) から発進した」。

第四回からは、東京の落語家のゲストをお招きしているが、今回は満を持

しての三遊亭円楽のお目見得である。高視聴率を誇る「笑点」の大喜利メンバーとして、知性派・社会派の印象が強い解答で、六人の中でひととき異彩を放っている。その円楽、東京都の生まれ。箱根駅伝連覇の青山学院大学部の出身だ。「星の王子様」と異名をとった五代目円楽門下で楽太郎の名で世に出るも、師の死後、兄弟子を越して六代目円楽を襲名した。

「お化屋」は、「化物長屋」とも呼ばれる古典で、上方落語では「借家怪談」で親しまれている。

円楽と掛けて「サーカスのライオン」と解く。その心は「火の輪を潜り抜けるのが上手」。(判るかなあ)

(敬称略)

■チケットのお申込み・お問合せ

茨木市文化振興財団・文化事業係 072-625-3055(クリエイトセンター1階 9:00~17:00)

*財団の発売初日はインターネット(1申込6枚まで)・電話予約(初日のみ1申込6枚まで)のみです。

*お席のご指定もうかがいます。座席表をご用意いただくと便利です。

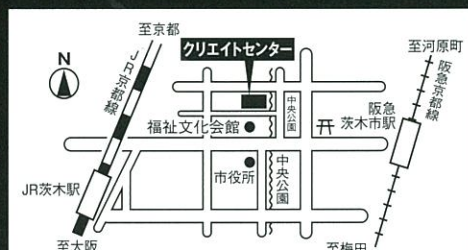
*予約後は、1週間以内にクリエイトセンターまたは福祉文化会館チケットカウンターでご精算ください。

*インターネット予約については、コンビニ(セブンイレブン、サークルK、サンクス)で精算・受取いただけます。(手数料108円)

*予約チケットの郵送をご希望の場合は、〈チケット料金+郵送手数料400円〉を郵便局備え付けの「払込取扱票」でお支払いください。払込手数料はご負担願います。払込確認後の発送となります。

〈払込口座〉00970-7-190576/加入者名:茨木市文化振興財団

■クリエイトセンター(茨木市市民総合センター) 茨木市駅前四丁目6番16号/072-624-1726



JR茨木駅から東へ徒歩10分。阪急茨木市駅から西へ徒歩12分。